



平成20年度町政執行方針を述べる池部町長

平成20年度 町政執行方針

重点施策

「広域連合の推進」
「行財政改革の推進」
「地域福祉の推進」

第4次総合計画の実現 「まほらの南富良野」

はじめに

3月6日から開かれた、平成20年第1回町議会定例会において、池部町長は「平成20年度町政執行方針」を説明し、3つの重点施策と第4次総合計画の実現に向けた町政推進の決意を述べ、町民皆さんのご理解とご協力を呼び掛けました。

以下、町政執行方針の内容をお知らせします。

平成20年第1回南富良野町議会定例会の開会にあたり、町政執行への私の所信を申し上げます。

私は、平成12年4月30日、多くの町民皆様のご支持とご支援によりまして南富良野町長に就任させていただきました。町政の舵取り役として重責を担わせていただいております。早いもので4月29日には2期8年の任期満了を迎えるところであります。

この間、多くの町民の皆様からご意見やご指導をいただき、中々、我が町の発展と町民福祉の向上を願い、「南富良野町」のために取り組んでまいることが出来ました。私にとりまして、この上ない光栄であり、町民皆様のご支援と議員各位のご協力を賜りましたことに対し、心から厚くお礼申し上げます。

私は、町長に就任以来、「町民参加のまちづくり」と「行動する行政」を基本姿勢として、「まほらの南富良野、瑞々しい自然、誇れる大地、人のびのびなみふらの」とした第4次総合計画の実現を目指し、「町民の参画による21世紀に対応するまちづくり」さらには「町民の皆様が誇れるまちづくり」のため、国の三位一体改革による地方交付税削減等の変革激しい財政環境の中で、町民皆様のご期待に添うべく町政執行に努めてまいりました。

この間、議員の皆様をはじめ町民皆様のご理解とご協力によりまして、行財政

改革に取り組む中で町政の持続性を高めつつ、少子高齢化対策や定住対策、産業振興支援など、諸課題に対して真正面から取り組むことができましたこと、心から感謝とお礼を申し上げます。

特に、昨今の「国の財政運営と構造改革」の荒波による自治体の再編問題では占冠村との合併協議や富良野圏域5市町村での自治のあり方の調査研究によりまして「広域連合」の取り組みによりまして、本町の財政見通しや行政サービス、事務事業のあり方について、町議会や町民皆様としっかりと議論する中で見つめ直し、情報認識を共有し合い、町の未来を真剣に考えていく「町民と行政の一体感」の醸成を成すことができました。これは、これからの町政の推進にあたり大きな財産であり、大きな成果であったと思っております。

また、地区集落の振興にあたりましては、喫緊の課題である高齢者福祉の充実と定住対策、雇用対策など



を兼ねまして、金山地区に特別養護老人ホームの建設が実現し、民間賃貸住宅の建設も促進され、今後の金山地区集落の活性化に大きな期待を寄せているところであり、さらには、大変厳しい財政運営の中で、住民サービスの低下を最小限に抑えることを念頭にして行財政改革の重点化に取り組み、財源を捻出して農林商工鉱業の各産業振興支援や住民福祉、教育関連施策につきましても、住民皆様の要望に応えるべく、全町の

な地域振興を考えながら取り組んでまいりました。

今、町政を取り巻く環境は、合併新法の下で市町村合併が推進され、国の地方制度調査会では、地方分権の推進とともに基礎自治体のあり方の中で、合併新法後の自治体再編についても議論がなされており、自治体財政の基盤である地方交付税についても、国の削減方針は固定化されつつありまして、小規模自治体は今後益々不透明な中で行政運営を強いられる状況にあります。また、本町地域の現状を見ますと、各産業基盤の脆弱さや地域経済情勢の低迷により、雇用環境に改善の兆しが見られず、「人・土地・集落の三つの空洞化」が進み、この結果、過疎化・少子高齢化による各集落の「共助の力」が低下し、町政を支える住民コミュニティ活動の継続が難しくなる状況をむかえつつあります。

私は、これらの本町が抱える多くの課題、課題に対し、町政の自立と継続性を

高めながら、住民皆様の目線による「暮らしの視点」から政策に取り組み、農林商工鉱業の支援はもとより、地域資源を最大限に生かした産業振興支援も展開していく中で産業の強化に取り組む、高齢化社会における住民コミュニティ活動の推進体制づくりを通じて各集落の「元氣」を取り戻し、今後益々多様化する住民のニーズに応える町政を目指していかねばならぬものと考えております。

町政執行の任をいただく中で多くの困難な課題が山積しておりますが、各般にわたり町政の推進を図ることができ、しかも町政推進の基本であります健全財政の運営に配慮しながら、無事その任を果たし、今日を迎えることができました。ことは、町民皆様のご支援とご理解、更には議員各位並びに関係機関のご協力をいただいた賜であり、また職員一人ひとりのたゆまぬ努力によって何とか克服することができましたことに対し心から感謝を申し上げます。

る次第であります。

地方自治体は、国の行財政改革・三位一体改革・骨太の方針による税財政構造の見直しなどにより地方交付税が大幅に削減されるなど、財政は非常に厳しい環境が続いており、年々悪化的な局面に立たされております。

平成20年度では、「地方再生対策費」が創設され3年ぶりの地方交付税の増額方針が出されておりますが、どの程度期待できるか未知数であり、厳しい現実には変わりはありません。地方分権による地域主権型社会を目指すため、地域に産業と特性を残すまちづくりを更に進めなければなりません。

私には、幾多の苦難を乗り越えてきた多くの先人の方々の努力を見習い、現在直面している困難に立ち向かい、南富良野町の新しい歴史を築いていく責務があります。

以上、町行政を取り巻く諸情勢と私の所感の一端を申し述べさせていただきます。

したが、先にも申し上げましたとおり、本年度は町長改選期であります。しかしながら、行政の中断は一日たりともゆるがせにすることは許されません。

このたび、町民皆様の厳粛な審判を仰ぐという意義あるときに当たり、行政運営の基本となる最小限の経費を中心とした骨格予算案の編成を本旨とし、更に町内における諸事情を考慮しながら、本年度予算の編成にあたっては、本年度の町政執行にあたり、重点施策について申し上げます。

重点施策

広域連合の推進

はじめに、富良野広域連合準備委員会でありましたが、国の社会構造が転換しつつある中、時代の変革に対応し、未来の子供たちのために魅力ある地域を創造し、社会経済条件が共通する富良野圏域5市町村で、連合効果を活かす新しい圏域つ